

経 営 計 画

令和2年3月

株式会社国際デザインセンター

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画期間
- 3 経営理念
- 4 事業概要
- 5 現状と課題
- 6 経営方針
- 7 取組内容と成果指標
- 8 年度別収支計画
- 9 進行管理

株式会社 国際デザインセンター経営計画

1 計画策定の趣旨

当社は設立以来、デザインを通じて地域の産業や文化の発展を図るとともに、国際社会に貢献する情報発信拠点を目指して様々なデザイン事業に取り組んできた。

一方、経営面においては、建物にかかる減価償却費等の固定費の負担が大きく経営を圧迫し続け、平成 17 年度には減損会計の適用により多額の累積損失額（62 億 70 百万円）を抱えることになった。

そこで、当社は、定期的に策定してきた経営計画の下、役員の見直しによる人件費の抑制や施設管理費の削減など徹底した経営改善に取り組み、その結果、平成 30 年度末の累積損失は 56 億 94 百万円まで縮減できた。

しかし、近年、リニア開業を見据えた名古屋駅地区などの周辺商業地区における商業機能の高まりにより、経営を取り巻く環境は厳しさを増しており、未だ、十分な経営改善に至っていない状況である。

また、産業界においては、イノベーションの必要性が高まる中で、令和元年 7 月、デザインセンタービル内に（一社）中部経済連合会及び名古屋市によりイノベーション拠点「NAGOYA INNOVATOR'S GARAGE（ナゴヤ イノベーターズ ガレージ）」が設置されたところであり、イノベーションにとって重要な役割を果たすデザインへの期待が高まっている。

そこで、当社は、今後も積極的にデザイン振興機関としての役割を果たすとともに、それを経営面で支える不動産事業収入の安定化を図るため、このたび第七次経営計画を策定して経営改善に取り組むこととする。

2 計画期間

令和 2 年度から令和 4 年度までの 3 ヶ年

3 経営理念

デザインに関する諸事業を通じ地域の産業、文化の発展を図るとともに、国際社会に貢献する情報発信拠点を目指す。

4 事業概要

(1) デザイン事業

区 分	内 容
デザインを通じた中 小企業支援	デザインの活用による商品開発の指導、デザイン相談、起業家へのオフィス提供、デザイン関連情報の発信などにより、中小企業を支援
クリエイター創業支 援	名古屋市によるクリエイター創業支援スペース「クリエイターズショップ・ループ」の企画運営を通じ、クリエイターの創業等を支援
イノベーション活動 の促進	(一社) 中部経済連合会及び名古屋市が設置する「NAGOYA INNOVATOR'S GARAGE」において、デザインの活用等による企業のイノベーション活動を促進
デザイン企画及び制 作事業	行政や企業などの広報ツール制作をはじめ、デザイン関連事業の企画運営、デザイン制作などを受注
展示会等の開催	様々なデザイン分野の展示会、イベント、講演会、セミナーを開催するなど、市民が幅広くデザインに触れる機会を提供
講師・委員等の派遣	デザイン啓発や普及のため、当社社員等を講師、委員等として派遣
ユネスコ・デザイン都 市なごや推進事業	ユネスコ創造都市ネットワークのデザイン分野に加盟している名古屋市はじめ関係機関との連携により、国際交流・デザイン都市PR、人材育成、デザイン啓発などの事業を推進
海外との交流事業	海外デザイン機関、国際デザイン団体等との情報交換や相互交流を推進

(2) 不動産事業

区 分	内 容
商業施設「クレアーレ」	デザイン性の高いファッションを中核に多彩な分野の店舗で構成する商業施設「クレアーレ」を運営
施設賃貸	「NAGOYA INNOVATOR'S GARAGE」、デザインホール、セミナールーム、事務室（市民活動推進センター等）、喫茶施設、駐車場等賃貸業務を実施
ナディアパークの施設管理	名古屋市及び三菱 UFJ 信託銀行(株)から委託を受け、ナディアパーク全体の施設管理運営業務を実施

5 現状と課題

(1) 現状

ア 最近の収支決算の推移

(単位：千円)

科 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度 見 込
売 上 高	704,179	680,541	633,934	667,838
営 業 利 益	△32,978	△53,136	△84,768	△65,272
経 常 利 益	23,399	1,137	△28,269	△6,272
当 期 純 利 益	19,407	8,211	16,785	9,478
繰越利益剰余金 当 期 未 残 高	△5,718,961	△5,710,749	△5,693,963	△5,684,485

イ 第六次経営計画（平成29年度～令和元年度）の達成状況

事 項	目標値 (令和元年度)	実績値		
		平成29年度	平成30年度	令和元年度 見 込
①デザイン支援件数	50件	100件	100件	125件
②当期純利益の確保	46百万円	8百万円	16百万円	9百万円
③社外研修等参加率	50%	77.8%	87.5%	87.5%

(2) 経営課題

ア デザイン事業

官公庁発注事業の予算規模の変動や不動産事業収入の収益減により、デザイン事業の規模が縮小してきている。

一方で、企業におけるイノベーションの必要性が高まる中で、令和元年7月には、デザインセンタービル4階に（一社）中部経済連合会、名古屋市の連携により、「NAGOYA INNOVATOR'S GARAGE」が設置されたところであり、イノベーションにとって重要な役割を果たすデザインの振興を図ることが求められている。

イ 不動産事業

名古屋駅地区の再開発による競合施設の増加や衣料品関連消費の低迷などを背景に商業施設「クレアール」の収益低下が続いているとともに、今後は、栄地区においても大規模な開発が計画されており、今後さらに賃料収入が厳しくなることが予想される。

一方で、現状においても周辺相場以上の賃料収入があり、短期的に大幅な売上向上は難しい中で、優良テナントの確保や運営の効率化により、収益の改善を図っていく必要がある。

また、建物・設備の経年劣化による修繕案件の増加や税負担、土地使用料などの固定費等の増加に対応していく必要がある。

ウ 人材育成

経費節減や事業見直しにより、社員数が減少している中で、デザイン事業、不動産事業など専門性の高い業務を少人数で的確に行っていく必要がある。

さらに、これらの分野においては、常に新たな潮流やビジネス手法が生まれており、効果的なデザイン支援や効率的な施設管理、働き方改革などを進めるためには、最先端の知識・ノウハウを積極的に身に付けていく必要がある。

6 経営方針

- 当社は公共性と企業性を併せ持つ第三セクターの株式会社として、今後、さらに重要性を増してくるデザイン事業について、行政や産業界との連携により積極的な役割を果たす。
- デザイン事業を収益面で支える不動産事業については、「クレアール」運営体制の強化、効率化を図るなど、収益性の向上に努め、経営の安定化を目指す。

7 取組内容と成果指標

(1) 今後の取組内容

ア デザイン事業

厳しい経営状況ではあるが、愛知県、名古屋市などの行政、産業界及びデザイン関連団体と連携を図り、デザイン経営やデザイン思考の普及啓発につながるセミナー等の企画、デザイン相談、若手クリエイターの育成などに取り組むことにより、イノベーションやスタートアップの促進を図る。

イ 不動産事業

商業施設「クレアール」においては、名古屋駅地区の再開発をはじめ厳しい経営環境にあり、短期的に大幅な売上向上は見込めない中で、収益を確保していく必要がある。

そのため、現行の運営体制を見直すことで、テナントリーシングの強化と運営の効率化を図り、収益の改善、経営の安定化を目指す。

ウ 人材育成

専門性の高い業務において、効果的なサービスの提供や効率的な運営ができる社員の育成を目指すため、OJTのみならず社外研修やセミナー等を積極的に活用し、最先端の知識・ノウハウを習得することにより、社員の能力向上を図る。

(2) 成果指標

「公共サービスの充実」「財務内容の改善・向上」「効率性の発揮と成果」「人材力・現場力の強化」の4つの視点を踏まえ、次のとおり成果指標を設定する。

① 公共サービスの充実

デザイン支援（デザイン無料相談を含む）件数を増加させる。

【成果指標】

事 項	令和元年度 見 込	目 標		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
デザイン支援件数	125件	130件	135件	140件

② 財務内容の改善・向上／効率性の発揮と成果

累積赤字の縮小を図るため、経常利益を黒字化する。

【成果指標】

事 項	令和元年度 見 込	目 標		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
経常収支比率	99.1%	100%	101%	102%

③ 人材力・現場力の強化

専門知識の習得等により、社員の能力向上を図る。

【成果指標】

事 項	令和元年度 見 込	目 標		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
社外研修等参加率	87.5%	100%	100%	100%

※社員数に占める社外研修参加社員数の割合

8 年度別収支計画

(単位：千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
売上高	700,100	702,900	705,700
(1)デザイン事業収入	75,000	76,000	77,000
(2)不動産事業収入	615,800	617,600	619,400
(3)その他収入	9,300	9,300	9,300
売上原価	283,800	279,000	275,600
(1)デザイン事業収入原価	37,200	38,000	38,800
(2)不動産原価	246,600	241,000	236,800
デザイン振興事業費	5,800	5,800	5,800
販売費及び一般管理費	450,000	449,900	449,800
営業利益	△39,500	△31,800	△25,500
営業外収益	44,000	44,000	44,000
経常利益	4,500	12,200	18,500
特別損失	1,000	1,000	1,000
税引前当期純利益	3,500	11,200	17,500
法人税、住民税及び事業税	1,250	1,250	1,250
当期純利益	2,250	9,950	16,250

9 進行管理

常勤役員会において計画全体の進行状況や達成状況等を把握するとともに、問題点の検証や新たな課題への対応については、その解決に向け全社一丸となって取り組む。

本経営計画を着実に実行していくため、半年毎に進行状況を確認し、必要に応じて取組内容や数値目標を見直すなど柔軟な進行管理を行う。